

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

マクロ経済学の入門的な内容について講義する。マクロ経済学の基礎を身につけることで、失業問題や国際貿易、経済政策などに関する身近な経済ニュースの背後にある理論的なメカニズムを知ることができる。講義では、GDP の定義をはじめ、マクロ経済学を学ぶために必要となる基本的な用語の解説から行う。国民所得はどのように決定されるのか、マクロ経済の枠組みにおいて家計の消費行動はどのようにして決められるのか、経済政策の効果を調べるための理論的な方法はどのようなものかといったテーマについて講義する。

学部生向け短期留学プログラムの引率業務に携わり世界銀行や海外の日本企業の現場を見てきた経験を活かし、中央銀行の役割や産業間の経済的な結びつきについて詳しく解説する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：講義の進め方、マクロ経済学を学ぶにあたって
第 2 回	産業連関表の見方と経済の仕組み：産業連関表から見る GDP の三面等価
第 3 回	国民所得勘定：GDP の定義とマクロ経済の循環的な流れ
第 4 回	45 度線モデル：国民所得決定の基礎
第 5 回	投資の変化や政府支出の変化が国民所得に与える影響：乗数効果について
第 6 回	中央銀行の役割：経済学における貨幣の定義と機能
第 7 回	IS-LM モデル 1：国民所得と利子率の決め方
第 8 回	IS-LM モデル 2：財政政策の効果と金融政策の効果
第 9 回	消費行動を左右するものは何か
第 10 回	投資はどのように決められるか
第 11 回	なぜ失業が存在するのか：労働市場における雇用量決定のメカニズムについて
第 12 回	総需要・総供給モデル 1：労働市場の存在と国民所得の決定
第 13 回	総需要・総供給モデル 2：経済政策の効果と賃金の変化が国民所得に与える影響
第 14 回	オープン・マクロモデルによる国民所得と為替レートの説明
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

マクロ経済学における基本的な用語の意味を理解し、マクロ経済問題の背後にある理論的なメカニズムをつかむことを目標とする。

履修上の注意

講義期間中に一度小テストを実施する。小テストを行う時期については、実施する一週間前までに通知する。毎回の講義において、講義内容の理解度や質問などを書いたリアクションペーパーの提出を求める。授業中の私語は慎み、遅刻をしないこと。

予習・復習

毎回の授業終了時に予習項目を指示する。

事後学習として、ノートや配布プリント、参考書の該当箇所を読み直しておくこと。

評価方法

学期末試験 80%、小テスト 10%、受講態度 10%

テキスト

講義プリントを配布する。

参考書については講義中に紹介する。

参考書一例：西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版